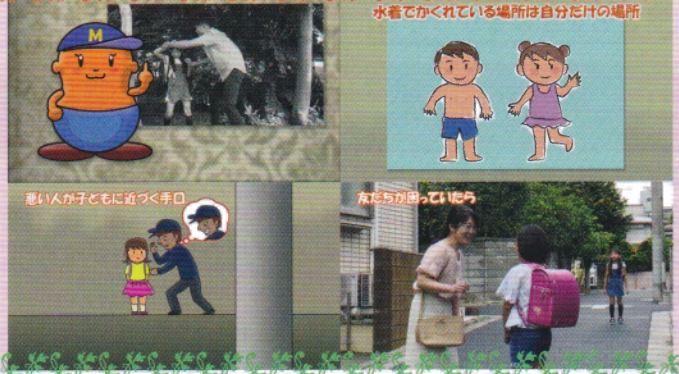


小学校中・高学年向け【約18分】

文部科学省選定

せい 性 性ひがい、ひとりで苦しんでいませんか？ ～自分のからだを守るヒント～



指導者・保護者向け【約19分】

文部科学省選定

気づかぬうちに性被害 ～子どもの安全を守る秘訣～



監修者のことば



NPO法人体験型
安全教育支援機構
代表理事 清永奈穂

子どもが被害に遭う事件が絶え間なく起きています。2019年の警察白書によると、13歳未満の子どもが、殺人や暴行などの身体犯罪の被害者となった件数は3,000を超えており、そのうち強制わいせつなどの性被害は1,000件余りと大変多く発生しています。またSNSを通して子どもに接近する犯罪者も増加する等、子どもを狙う手段は複雑化してきており、子どもを犯罪から守るために新たな対策を考え実行することは急務です。

この作品は、次々生まれる新たな手口で子どもを狙う犯罪に対し、周囲の大人がどうやって子どもを守ればよいかの具体的な方法が丁寧に描かれています。そして子どもたち自身が自分の身体や尊厳を守るために身に付けてほしい力も体験的に学べる内容となっています。無作法かつ暴力的な接触に対して勇気を出して「いやだ」と言えるために、そして「自分が悪いから被害にあった」と自分を責めてしまう子どもに対して、あなたは決して悪くない、とても大事な存在なのだと伝えるということを念頭に、ぜひ大人も子どもとこのDVDをご覧いただき、体験的に被害に遭わない心構えを身につけていただければ幸いです。

企画意図

子どもをねらった性犯罪が後を絶ちません。性被害は、そのものが子どもに大きなダメージをもたらしますが、被害を受けた子どもが自分を責めてしまうことで、さらに心の傷が深くなっていくという特徴があります。最近ではインターネットを通して子どもを誘い出したり、裸の写真を送らせ悪用するという被害も頻発しています。子どもを性被害から守るには、子どもの姿が多く見られる通学路などの対策と同時に、インターネット対策が必要不可欠です。

〈小学校中・高学年向け作品〉では、小学生の女の子ゆかが、通学路でわいせつ行為をされたことで悩んでいると、アニメキャラ「見守りくん」が現れて、性被害について語り始めます。ゆかは「見守りくん」に教えてもらいながら、性被害から自分を守る方法を学んでいき、さらに友だちを守ることの大切さにも気づいていきます。そして、被害を受けた子どもは少しも悪くないこと、嫌なことをされたら、「嫌だ」と拒絶することの重要性を伝えます。

〈指導者・保護者向け作品〉では、被害を受けた子どもは悪くないこと、プライベートゾーンの重要性、保護者として知っておくべきことを示します。そして、通学路やインターネットにおいて、犯罪者が子どもをねらう手口や実際の被害事例を紹介し、危険を避けるための心構えやインターネットの使い方、あやしい人の見分け方などを、どのように子どもに教え、指導したらよいかを示します。また、インターネットのトラブルに巻き込まれている子どもを早く発見するための注意点、子どもと話し合うときのポイント、子どもの性被害についての専門の相談窓口を紹介し、子どもを性被害から守るために、保護者としてできることを示唆します。

小学校中・高学年向け
約18分

文部科学省
選定

性ひがい、ひとりで苦しんでいませんか? ~自分のからだを守るヒント~

■被害者は悪くない

ゆかはある日、不審者に声をかけられ、物陰で体を触られそうになる。自分を責めるゆかのもとに「見守りくん」が現れた。

■性被害からどう身を守る?

不審者は子どもが一人きりになり、まわりに人がいなくなる一瞬をねらって近づいてくる。大事なことは、「イヤ」としっかり言えること、その前に『あぶない!』に、早く気づくこと、そして、あぶないときには自分で自分を守ることだ。

■インターネットによる性被害

子どもをねらう人は、インターネットを利用して子どもの様子をさぐる。例えば「家出したい」「死にたい」などの書き

込みを見つけると「心に隙がある」と思ってねらってくる。

■子どもの自画撮り被害

ネットには、子どもの裸の写真があふれている。これらの多くは、子どもが自分で自分の裸の写真を撮影して送ってしまったもの。一度ネットに出てしまった写真はずっと残り、多くの人に繰り返し見られることになってしまう。信用している親しい相手であっても、下着姿や裸の写真を送ってはいけない。はっきり断るか、無視するよう訴える。

■ライブラリー価格 本体 ¥ 65,000 (税込 ¥ 71,500)

■学校価格 (小学校のみ) 本体 ¥ 33,000 (税込 ¥ 36,300)

指導者・保護者向け
約19分

文部科学省
選定

気づかぬうちに性被害 ~子どもの安全を守る秘訣~

■子どもが直面する性被害の危機

子どもの性被害が大きな社会問題になっている。性被害から子どもを守るには、どのようなことを心がけたらよいのだろうか。

■通学路でねらわれる子ども

性被害を受けた子どもの特徴として、自分を責めてしまう傾向がある。「被害を受けた自分が悪いのではない」ということをしっかり子どもに伝えることが大事だ。

また通学路は、子どもがねらわれやすい場所である。子どもが毎日学校に通う道に潜む犯罪者。子どもが犯罪被害にあわないために、どのような指導をしたらよいのだろうか。

■インターネットで誘い出される子ども

子供たちの日常にとけこんでいるインターネット。しかし今、

インターネットを通して子どもが誘い出され、性被害にあう事件が相次いでいる。

子供を犯罪被害から守るためには、保護者が子どものインターネットの利用を見守ることが欠かせない。

■自画撮り被害

子どもがインターネットで知り合った人に言葉たくみにだまされたり、脅されたりして、自分の裸の写真を撮影して送ってしまい、児童ポルノとして悪用されるなどの自画撮り被害が続出している。

子どもの自画撮り被害を防ぐために保護者として心がけることは何だろうか。

■ライブラリー価格 本体 ¥ 65,000 (税込 ¥ 71,500)

監修 NPO法人体験型安全教育支援機構 代表理事 清永奈穂

企画・制作統括 高木 裕己

脚本・演出 川崎 けい子

制作・著作 株式会社 映学社

■DVD [カラー] ■2021年・映学社作品